

□ 主な内容

【地域における外国人旅行者等の移動円滑化に向けた支援を開始】

エコモ財団は、地域において外国人旅行者等の移動円滑化に取り組む団体等の支援を開始しました。

<http://www.ecomo.or.jp/environment/Inbound/bosyuu.html>

【第 9 回地域の交通環境対策推進者養成研修会 (金沢) 開催予定】

EST 普及推進委員会、エコモ財団、北陸信越運輸局は、10 月 11 日 (水) ~ 13 日 (金) の 3 日間、金沢市で研修会を開催する予定です。

http://www.estfukyu.jp/pdf/EST_mailmagazine_vol.129_4.pdf

□ 目次

1. 寄稿 (1) 「環境的に持続可能な交通を目指して」 (第 129 回)

● 「暮らしやすいまちに貢献する交通計画」

【東京大学大学院工学系研究科都市交通研究室 教授 原田 昇】

2. 寄稿 (2) 「地方から全国に向けた情報発信！」 (第 129 回)

● 「ふじのくに『エコ de 安全』ドライブ促進コンソーシアム事業について」

【特定非営利活動法人アースライフネットワーク 井口 朗彦】

3. ニュース／トピック

● 平成 28 年に販売した「低燃費乗用車ベスト 10」及び「自動車燃費一覧」について【国土交通省】

● まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構想の策定について【国土交通省】

● 第 12 回大都市交通センサス調査結果の公表について【国土交通省】

● 「片利用共通接続システム」の構築に関する方向性について【国土交通省】

● 標準的なバス情報フォーマットについて【国土交通省】

● 地域公共交通の「サービスのアクセシビリティ指標」評価手法の公表について【国土交通省】

● 「次世代自動車ガイドブック 2016-2017」の公表について【環境省】

● 平成 29 年度「家庭部門の CO2 排出実態統計調査」の実施について【環境省】

● 平成 27 年度の温室効果ガス排出量 (確報値) について【環境省】

● 平成 29 年度モビリティ・マネジメント教育にかかわる学校支援制度の募集について【エコモ財団】

- 地域における外国人旅行者等の移動円滑化を図る取組みを支援します【エコモ財団】
- 「運輸・交通と環境 2017 年版」を発行【エコモ財団】
- 地域公共交通実態調査の集計結果について【中部運輸局】
- 地域連携サポートプラン提案書の交付について【近畿運輸局】
- 鉄道コンテナ見学会の開催について【中国運輸局】
- 公共交通マナーアップの呼びかけについて【中国運輸局】
- 外国人利用者に向けた公共交通案内情報の共通化を目指した取組について【京都市】
- タクシー車両によるコミュニティバス「しおかぜ」の本格運行について【神戸市】
- EV を活用したカーシェアリング「ゼロエミッション・ツーリズム」について【株式会社 JTB コーポレートセールス】
- 未来の都市における交通を示す研究結果について【ドイツ連邦環境庁】

4. イベント情報

- 第 7 回地域の交通環境対策推進者養成研修会(金沢)【2017/10/11-13】
- レールバスと遊ぼう【2017/5/4-6】
- エコトレーニング【2017/5/28】
- エコライフ・フェア 2017【2017/6/3,4】
- 九都県市エコドライブ講習会【2017/6/12,19,25,26】
- 第 10 回 ECOMO 交通バリアフリー研究助成報告会【2017/6/20】
- 第 12 回日本モビリティ・マネジメント会議【2017/7/28,29】
- 第 9 回土木と学校教育フォーラム【2017/8/6】
- 第 24 回 ITS 世界会議モントリオール 2017【2017/10/29-11/2】
- 第 15 回 ITS シンポジウム 2017【2017/12/7,8】
- エコプロダクツ 2017【2017/12/7-9】

5. その他

- EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 129 回)

●「暮らしやすいまちに貢献する交通計画」

【東京大学大学院工学系研究科都市交通研究室 教授 原田 昇】

私の専門は都市交通計画ですが、実践的側面を強調する場合には、「交通まちづくり」と説明します。一言でいえば、「暮らしやすいまちに貢献する交通計画」です。ここで「暮らしやすいまち」とは、「若者も、子育て世代も、働き盛りも、高齢者も、男性も女性も、生きていくために必要な活動はもちろん、それに加えて、それぞれの人生を豊かにする、個人の望む活動を居心地のよい仲間たちと共に展開できるまち」です。そして、このような人々が出会いを楽しむことのできる社会の実現に向けて、人々が集うことのできる場所とそこに行くことのできる交通サービスの構築に努めています。

一昔前は、持続可能なモビリティを実現することを目標として掲げて、経済的・環境的・社会的に持続可能なモビリティを目指すと説明していましたが、クルマ社会の負の側面を減らすという後ろ向きのイメージを強く感じるようになり、暮らしやすいまちを創るという前向きな目標設定に変えて、説明しています。

根っこにあるのは、過度なクルマ社会への反旗です。学生時代に「自動車の社会的費用」を読んで、過度なクルマ社会が形成されていく原因が外部費用を意識することのないクルマ利用にあることを頭で学びました。その後、道で遊ぶ子供を見なくなり、中心市街地のシャッター街が目立つようになり、クルマ社会に伴う郊外化が街を破壊するにつれ、また、買い物難民、通院難民が増大するにつれ、過度なクルマ社会を実感するようになり、過度なクルマ社会を促進している要因やそれを逆転する方策を考えるようになりました。その私なりの答えが「交通まちづくり」なのです。

環境的に持続可能な交通を利用して暮らしたいと考えた時に、環境的な負荷の小さな交通サービスを用いて、自分のやりたいことを気の合う仲間とすることのできるまちを創りたいのです。若者、高齢者、子育て世代、様々な人々の集うことのできる場所を創り、うまくつなぐ交通サービスを、できれば、自動運転技術も使って、今までより低廉で便利になる形で提供したいのです。ストラスブールの「徒歩憲章」にみる、クルマが知らず知らずのうちに奪い取った、「人と交わる機会」を取り戻そうという宣言を、わが国でも実践したいのです。

環境的に持続可能な交通を目指す活動と交通まちづくりは同じ方向を向いています。共に頑張りましょう。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 129 回)

●「ふじのくに『エコ de 安全』ドライブ促進コンソーシアム事業について」

【特定非営利活動法人アースライフネットワーク 井口 朗彦】

当法人は、1997 年 6 月に設立された環境市民団体「ストップ・ザ・温暖化」静岡県民ネットワークを母体として、2003 年 4 月に設立された団体で、行政・事業者・県民と幅広く連携・協力・協働しながら、県民が温暖化防止活動を進めるための普及啓発事業やイベント、環境教育等を実施しています。

静岡県は、自家用乗用車の台数が約 218 万台(全国第 10 位)であり、また、世帯あたりの保有台数も 1.414 台と全国平均(1.064 台)を大きく上回るなど、県民が移動に車を使用することが多い県です(※)。このため、乗用車に起因する二酸化炭素の排出量を減らすことが、県全体の二酸化炭素排出量削減に寄与することとなります。

そこで、静岡県、県内の各種自動車関連団体(静岡県自動車会議所、日本自動車販売協会連合会静岡県支部、日本自動車連盟(JAF)静岡支部、静岡県指定自動車教習所協会)に当法人が呼びかけ、「ふじのくに『エコ de 安全』ドライブ促進コンソーシアム」を構築し、共同で事業に取り組みました。

自動車販売店の従業員を、同僚や一般ユーザーへの「伝え手」である「エコドライブマスター」として育成するため、実技を含めたエコドライブ講習会を実施しました。また、各販売店をエコドライブの普及推進拠点と位置づけ、一般の顧客へのエコドライブ講習を行うなど、事業に広がりを持たせました。さらに、エコドライブを周知するため、「ふじのくに交通安全県民フェア」などのイベントに PR ブースを出展、会場では、エコドライブのポイントをまとめた「エコドライバ宣言カード」を活用することで、多くの来場者の方にエコドライブをアピールできました。この他、コンソーシアムメンバーである教習所協会の協力を得て、各教習所にパンフレットやポスター、ミニのぼりを配布、免許取得の段階からエコドライブを意識してもらえよう、事業展開しました。

この結果、1700 名を超える県民の皆様が事業に参加いただき、エコドライブに取り組んでいただいております。

今後も、コンソーシアムメンバーと協力して、エコドライブ普及のための活動を展開してまいります。

※平成 28 年 3 月末現在。一般財団法人自動車検査登録情報協会統計書より。

3. ニュース／トピック

●平成 28 年に販売した「低燃費乗用車ベスト 10」及び「自動車燃費一覧」の公表について【国土交通省】

国土交通省は、平成 28 年末時点で販売されている乗用車の燃費ベスト 10 及び平成 28 年版「自動車燃費一覧」を取りまとめました。平成 28 年末時点で販売されている乗用車のうち、最も燃費の良い乗用車は、普通・小型自動車ではプリウス、軽自動車ではアルト及びキャロルとなりました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000180.html

●まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構想の策定について【国土交通省】

国土交通省では、低炭素社会の実現に向けて、まち・住まい・交通の一体的な創蓄省エネルギー化を推進するため、地方自治体や民間事業者等による先導的な構想の策定を支援する事業を展開しており、平成 28 年度は、新たに 5 地域においてモデル構想が策定されました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000145.html

●第 12 回大都市交通センサス調査結果の公表について【国土交通省】

国土交通省は、首都圏、中京圏、近畿圏の三大都市圏における鉄道、バスの利用実態を把握し、公共交通施策の検討に資する基礎資料の提供を目的として、昭和 35 年以来 5 年ごとに実施している大都市交通センサス調査について、平成 27 年に実施した調査結果を取りまとめたことを発表しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000106.html

●「片利用共通接続システム」の構築に関する方向性について【国土交通省】

国土交通省は、相互利用可能な交通系 IC カードの普及・拡大に向けて、民間事業者等による「片利用共通接続システム」の構築が円滑に進むための環境整備を目的として、同システムの構築に関する基本的な方向性をとりまとめました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo22_hh_000015.html

●標準的なバス情報フォーマットについて【国土交通省】

国土交通省では、インターネット等の経路検索におけるバス情報拡充のため、バス事業者と経路検索事業者との間でデータの受渡をするための標準的なバス情報フォーマットを定めました。中小バス事業者と経路検索事業者の情報共有が進むことで、バス情報の拡充が期待されます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000109.html

●地域公共交通の「サービスのアクセシビリティ指標」評価手法の公表について【国土交通省】

国土交通省では、市町村が地域公共交通活性化に取り組むにあたり、地域公共交通のサービス水準を客観的に把握するための手法について、地域公共交通の「サービスのアクセシビリティ指標」評価手法を取りまとめました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000107.html

●「次世代自動車ガイドブック 2016-2017」の公表について【環境省】

環境省、経済産業省及び国土交通省では、今後のさらなる次世代自動車の普及のために、次世代自動車に関連したより多くの情報を広く周知し、共有することが重要と考え、これらの関連情報をとりまとめた「次世代自動車ガイドブック 2016-2017」を作成しました。

<http://www.env.go.jp/press/103880.html>

●平成 29 年度「家庭部門の CO₂ 排出実態統計調査」の実施について【環境省】

環境省は、家庭からの CO₂ 排出実態やエネルギー消費実態等の詳細な基礎データの把握を目的として「家庭部門の CO₂ 排出実態統計調査」を実施することを発表しました。車両についての調査内容は、自動車等の使用状況・燃料の種類・排気量・実燃費・使用頻度・年間走行距離・自動車に関する省エネ行動となっています。

<http://www.env.go.jp/press/103860.html>

●平成 27 年度の温室効果ガス排出量（確報値）について【環境省】

環境省と国立環境研究所は、平成 27 年度の我が国の温室効果ガス排出量（確報値）をとりまとめました。平成 27 年度の温室効果ガスの総排出量は 13 億 2,500 万トン（二酸化炭素（CO₂）換算）で、前年度比 2.9%減（2013 年度比 6.0%減、2005 年度比 5.3%減）でした。

<http://www.env.go.jp/press/103922.html>

●平成 29 年度モビリティ・マネジメント教育にかかわる学校支援制度の募集について【エコモ財団】

エコモ財団では、モビリティ・マネジメント教育の実施に意欲的な教員に対して、ノウハウの提供や資金面での支援を行い、実施校の拡大と新たな教材事例の増加を図ることを目的として本制度を実施しています。現在、平成 29 年 6 月 23 日まで平成 29 年度分の支援校を以下のホームページで募集しています。

http://www.mm-education.jp/gakkou_sien.html

●地域における外国人旅行者等の移動円滑化を図る取組みを支援します【エコモ財団】

エコモ財団では、地域における公共交通の維持活性化に資することを目的として、ターミナルから観光地等へのアクセスの改善や、外国人旅行者でも分かり易くかつお得な移動方法の案内の充実化等を図る取組みに対して資金やノウハウ面での支援を行います。

<http://www.ecomo.or.jp/environment/Inbound/bosyuu.html>

●「運輸・交通と環境 2017 年版」を発行【エコモ財団】

エコモ財団は、運輸・交通分野における環境問題について、基礎的なデータと、最新の対策や取組みをわかりやすく紹介した「運輸・交通と環境 2017 年版」を発行しました。

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyuu/unyukotsutokankyuu.html>

●地域公共交通実態調査の集計結果について【中部運輸局】

中部運輸局では、愛知県、静岡県、岐阜県、三重県、福井県の 177 市町村に対するアンケート調査を実施し、平成 27 年度に運行しているコミュニティバスの現状と実態について取りまとめました。

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/press/pdf/jikou20170329.pdf>

●地域連携サポートプラン提案書の交付について【近畿運輸局】

近畿運輸局は、平成 28 年 10 月に「地域連携サポートプラン」協定を締結した奈良県宇陀市において、地域公共交通に関する現状把握や意見交換等を進め、宇陀市が抱える公共交通の課題解決に向けた提案書を交付することを発表しました。交付式は平成 29 年 4 月 26 日(水)に行われます。

<http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/press/2017-0420-1158-25.html>

●鉄道コンテナ見学会の開催について【中国運輸局】

中国運輸局では、四国運輸局及び JR 貨物と共催し、岡山貨物ターミナル駅において鉄道コンテナ見学会を開催しました。物流事業者や荷主企業から希望する 18 名が参加し、鉄道貨物輸送についての説明や、実際の荷役作業の見学が行われました。

http://www.estfukyu.jp/pdf/EST_mailmagazine_vol.129_2.pdf

●公共交通マナーアップの呼びかけについて【中国運輸局】

中国運輸局では、「公共交通の『心地よい空間づくり』を目指して」を合言葉に、今年度も公共交通マナーアップキャンペーンを行いました。今年度は中国 5 県に範囲を拡大し、各地で街頭運動を行いました。

http://www.estfukyu.jp/pdf/EST_mailmagazine_vol.129_3.pdf

●外国人利用者に向けた公共交通案内情報の共通化を目指した取組について【京都市】

京都市では、公共交通に関連する案内を外国人に分かりやすく伝えるために、京都市内を運行するバス・鉄道事業者 16 社局、学識経験者、行政など多彩なメンバーによる議論を行い、案内情報の共通化に向けた取組指針の初版を取りまとめました。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000216969.html>

●タクシー車両によるコミュニティバス「しおかぜ」の本格運行について【神戸市】

神戸市では、地域の交通環境改善に向けて新たな移動手段を確保することで、公共交通ネットワークの充実を図ることを目指し、タクシーを活用した定時定路線型の地域コミュニティ交通として、コミュニティバス「しおかぜ」の運行を開始することを発表しました。

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2017/03/20170329161301.html>

●EV を活用したカーシェアリング「ゼロエミッション・ツーリズム」について【株式会社 JTB コーポレートセールス】

株式会社 JTB コーポレートセールスは、日産自動車株式会社並びに株式会社日産カーレンタルソリューションと共同で、電気自動車を活用した宿泊施設でのカーシェアリング「ゼロエミッション・ツーリズム」を行うことを発表しました。「ゼロエミッション・ツーリズム」とは、観光客の移動や、宿泊施設による観光客の送迎などにおいて、走行中に CO₂ を全く排出しない EV を活用するプログラムです。

http://www.jtbbwt.com/news/00001_2470.pdf

●未来の都市における交通を示す研究結果について【ドイツ連邦環境庁】

ドイツ連邦環境庁は、研究プロジェクト「未来の都市」の結果を公表し、人口 10 万人以上の自治体において、快適にモビリティを使用するには、人口 1000 人につき 150 台以上の乗用車は必要ないことが示されました。

<http://www.umweltbundesamt.de/presse/pressemitteilungen/die-stadt-fuer-morgen-deutlich-mehr-geld-fuer-busse>

4. イベント情報

●第7回地域の交通環境対策推進者養成研修会(金沢)

日時:2017年10月11日(水)~13日(金)

場所:ITビジネスプラザ武蔵6階「交流室1」

主催:EST普及推進委員会、エコモ財団、国土交通省北陸信越運輸局

http://www.estfukyu.jp/pdf/EST_mailmagazine_vol.129_4.pdf

●レールバスとあそぼう

日時:(1日目)2017年5月4日(木)12:00~15:00

(2日目)2017年5月5日(木)10:00~15:00

(3日目)2017年5月6日(木)10:00~15:00

場所:南部縦貫鉄道旧七戸駅

主催:七戸町観光協会、南部縦貫レールバス愛好会

<http://www.ogaemon.com/r-bus/2017iv.htm>

●エコトレーニング

日時:2017年5月28日(日)13:00~17:00

場所:信州松本つかま自動車学校

主催:JAF長野支部

http://jafevent.jp/event/1702_20_004_0.html

●エコライフ・フェア 2017

日時:(1日目)2017年6月3日(土)11:00~17:00

(2日目)2017年6月4日(日)10:00~17:00

場所:東京都渋谷区都立代々木公園

主催:環境省

<http://www.env.go.jp/press/103659.html>

●九都県市エコドライブ講習会

日時:(1日目)2017年6月12日(月)
(2日目)2017年6月19日(月)
(3日目)2017年6月25日(日)
(4日目)2017年6月26日(月)

場所:(1日目)尾久自動車学校
(2日目)セイコーモータースクール
(3日目)千葉県自動車練習所
(4日目)KANTO モータースクール横浜西口校

主催:一般社団法人 日本自動車連盟
九都県市(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市)

<http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2017/04/10/05.html>

●第10回 ECOMO 交通バリアフリー研究助成報告会

日時:2017年6月20日(火)14:30~16:45

場所:日本財団 2階第1~3会議室

主催:交通エコロジー・モビリティ財団

http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/bfyosei/2017/bfyosei_2017_report10_top.html

●第12回日本モビリティ・マネジメント会議

日時:2017年7月28日(金)、29日(土)

場所:福岡県福岡市 アクロス福岡

主催:一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議

<http://www.jcomm.or.jp/>

●第9回土木と学校教育フォーラム

日時:2017年8月6日(日)9:00~17:00

場所:土木学会講堂

主催:公益社団法人土木学会

土木計画学研究委員会「交通まちづくりの実践」研究小委員会

<http://committees.jsce.or.jp/education04/node/39>

●第 24 回 ITS 世界会議モントリオール 2017

日時:2017 年 10 月 29 日(日)~11 月 2 日(木)

場所:Le Palais des congres de Montreal

主催:ITS America / ITS Canada

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_100/montreal-2017/

●第 15 回 ITS シンポジウム 2017

日時:2017 年 12 月 7 日(木)~8 日(金)

場所:九州大学 伊都キャンパス 椎木講堂

主催:特定非営利活動法人 ITS Japan、九州大学

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/15th2017/

●エコプロダクツ 2017

日時:(1 日目)2017 年 12 月 7 日(木)10:00~18:00

(2 日目)2017 年 12 月 8 日(金)10:00~18:00

(3 日目)2017 年 12 月 9 日(土)10:00~17:00

場所:東京ビッグサイト 東ホール

主催:一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/2016/outline/000511.html>

5. その他

- EST パートナースHIP会員制度に参加する団体を募集しています！
2013年7月16日から募集を開始し、37団体が参加しています。
会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。

http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html

- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！

<https://twitter.com/officeEST>

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp/>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp (担当: 熊井)

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>